

調査の進め方

調べる林を選ぶ

調査は2000年秋（9月）からスタートし、2001年の夏まで1年間、四季を通して必ず同じ林で行っていただきます。ですから、調べる林は、住んでいる場所や学校、勤め先の近く、よく出かける場所など、年に何回も調査に出かけられるような場所がよいでしょう。どんな林を選べばよいのか、詳しくは6ページをご覧ください。

何を調べるの？

秋冬調査では

秋の林では多くの草木が実をつけます。植物の種類が多い林では、そこに生活できる生物の種類も多くなります。そこで、秋冬調査では草木の実に注目して、その林の自然の豊かさを調べます。実物を集める「ドングリ」は、ブナ科のコナラ属やマテバシ属などの樹木の果実で、林の主役になる木でもあります。ドングリの種類から、その林のおおよそのようすを知ることができます。「赤い実」は、秋から冬にかけてヒヨドリ、ツグミなど多くの鳥の食料になるものです。あなたの調べる

林では、赤い実が何種くらい見つかるでしょうか。

また、秋は落葉樹が葉を落とすので、常緑樹の割合を調べるにも都合のよい季節です。林の人手の入り方とともに記録します。

春夏調査では

春から夏にかけては、多くの植物が花を咲かせ、虫たちが活発に活動します。あなたの調べる林では、どんな花や虫が見つかるか、いくつかのテーマで調べていきます。

春に調べる「タンポポ」は、その林のまわりの都市化がどのくらい進んでいるかを教えてくれるはずです。いっしょに、林の中で見られる「春の花」の撮影もしていただきます。

夏に調べる「セミのぬけがら」からは、その林にすんでいるセミの種数を知ることができます。種数が多いほど、その林がより豊かな林だとみることができるといわれています。いっしょに、林で見られる大型の「夏の虫」の撮影もしていただきます。

春から夏には、よく草木が茂ります。林がいちばんにぎやかな季節に、林のようすの記録もしていただきます。



持ち物

記録用紙、筆記用具、採集した実物を入れる容器とカメラを持って行きましょう。カメラは、一眼レフのようなものなら申し分ありませんが、コンパクトカメラやレンズ付きフィルム（使い捨てカメラ）でも十分記録できます。調べていたものが暗い場所にあるときには、ストロボ付きのカメラを使うと写真ははっきり撮影できます。

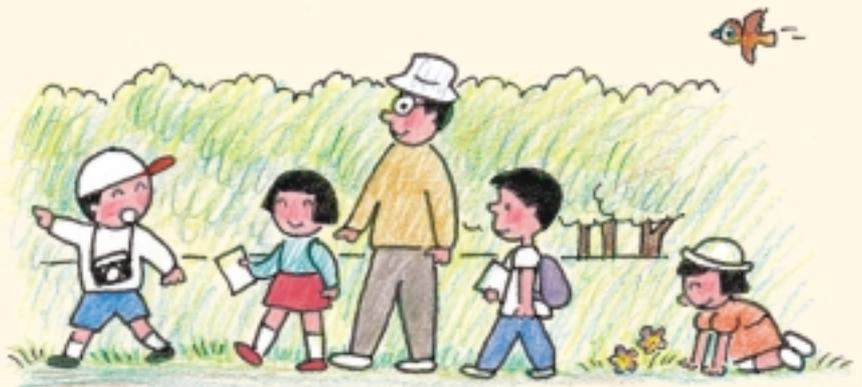
記録のしかた

まず、調べる林が決まったら、林や林のまわりを歩いてみましょう。そのときに見つかった動植物や林のようすについて記録をとります。

また、その林から少し離れたところから、林のようすを写真（林の写真）に撮りましょう。公園は別にして、林には持ち主の方や管理されている方がいます。林の中に入る場合には許可をもらうようにしましょう。

何回か同じ林に出かけよう

調べる林が決まったら、その林に「公園」「の森」など、決まった名前がない場合には、自分でニックネームをつけましょう。ニックネームをつけた同じ林で、秋冬調査、春夏調査と1年間通して調査を行っていただきます。林の詳しい記録をとるには、同じ林で調査していただくことがとても大切です。いろいろな林で調査しないよう十分に注意してください。また、林のようすを知るためには、何回か足を運んでください。前は、見つからなかった動植物がもしかすると見つかることがあるかもしれません。



C a l e n d e r

生きもの調査カレンダー



季節



秋冬



2000年

林を調べる

林の写真を
撮る



紅葉の時期



落葉の時期



林を
調べる



木のようす



動植物

実物を
集める



ドングリ



写真を
撮る



赤い実



2001年

春



新芽の時期



地面のようす



タンポポ



春の花

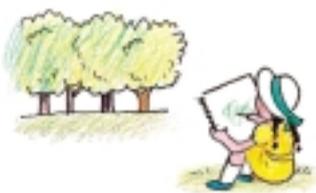


夏

葉が茂った時期



林のつくり



セミのぬけがら



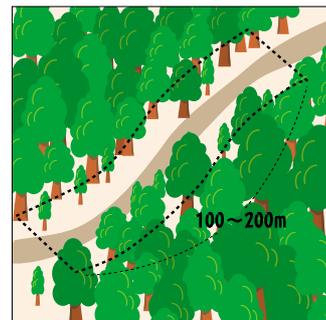
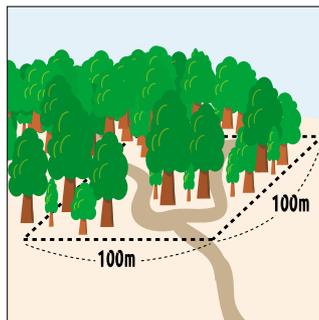
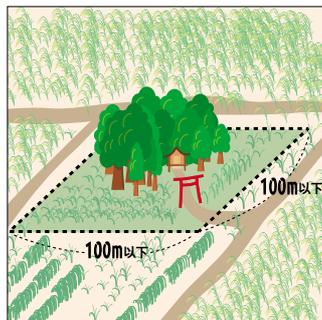
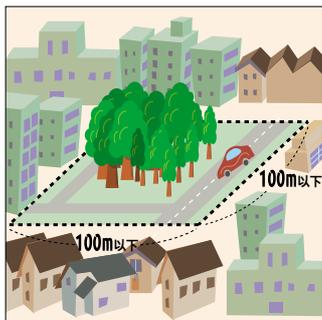
夏の虫



こんな林を 選んでください

小さな林の場合

100m四方以下なら林の全体とその周辺を調べます。

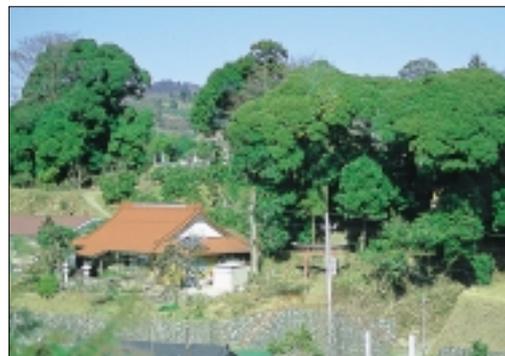


広い林の場合

林道のような広めの道にそって100~200mくらいを調べます。中に入れる林なら、林の縁^{ふち}を含むようにして100m四方くらいを調べます。大人の歩幅を50cmとすると、100mは200歩くらいになります。



公園の林



やしきりん
屋敷林



しゃじりん
社寺林



ほぞんりよくち
保存緑地



しゃめんりん
斜面林



きゅうりょう
丘陵や山地の広い林